

中学地理プリント（過去問類似）

北海道地方

名前

得点

/7

問1 札幌市と福岡市の降水量を比較した資料において、6月から7月にかけての札幌市の降水量は、福岡市などの都市と比べて著しく少ないことが示されています。このような気候の特徴が見られる理由として、最も適切な説明はどれですか。（2021年 神奈川県公立入試 類似）

公立入試 類似

1. 梅雨をもたらす停滞前線が北海道付近まで北上する頃には、勢力が弱まるなどして消滅することが多いため。
2. 夏の季節風がシベリア高気圧の影響で乾燥し、雨雲が発達しにくくなるため。
3. 太平洋側から吹く温かく湿った空気が、日高山脈などの高い山々にさえぎられて乾燥した風になるため。
4. 寒流である親潮の影響によって海水温が低く、大気中の水蒸気量が年間を通じて極めて少ないため。

問2 北海道の産業別就業者数に関する特徴として、最も適切な記述はどれか。（2025年 青森県公立入試 類似）

1. 広大な土地で農業が行われているため、第1次産業の割合が全国平均に比べて高い。
2. 大規模な工業団地が多く、第2次産業の割合が全産業の中で最も高い。
3. 大消費地である東京に近いため、近郊農業による第1次産業の割合が全国で最も高い。
4. 第1次産業から第3次産業まで、それぞれの就業者割合がほぼ均等になっている。

問3 北海道の沿岸部に位置する各都市と、それらが面している海域の名称の組み合わせとして、地理的な位置関係が正しいものはどれですか。（2016年 京都公立入試 類似）

1. 小樽市は日本海に面しており、網走市はオホーツク海に面している。
2. 小樽市はオホーツク海に面しており、網走市は日本海に面している。
3. 小樽市は太平洋に面しており、網走市は日本海に面している。
4. 小樽市は日本海に面しており、網走市は東シナ海に面している。

問4 北海道で生産される生乳の統計において、生産量の半分以上が飲用ではなくバターやチーズの原料となる加工用として利用されている主な理由を選びなさい。（2019年 静岡公立入試 類似）

1. 関東などの大消費地から遠いという地理的条件があり、鮮度が求められる飲用よりも保存の利く乳製品への加工が適しているため。
2. 北海道の気候は夏に気温が上がりすぎるため、生乳の鮮度を保つため道外へ輸送することが技術的に不可能であるため。
3. 地産地消の考えに基づき、北海道内で生産された生乳は道内での飲用分を除き、すべて加工品にしてから輸出する義務があるため。
4. 大規模な畑作と組み合わせた混合農業が盛んであり、生乳をそのまま出荷するよりも肥料として活用する割合が高いから。

問5 日本の生乳処理量を調査した統計において、バターやチーズの原料となる「加工用生乳」の処理量は北海道が全体の約89.3%と圧倒的であるのに対し、直接飲むための「飲用生乳」の処理量は関東や中京圏などでも高い数値を示しています。このような違いが生じる背景について正しく述べたものはどれですか。（2022年 埼玉県公立入試 類似）

1. 北海道は広大な土地を活かした大規模な酪農が行われているが、遠方の大消費地へ鮮度を保ったまま届ける必要がある飲用牛乳よりも、保存のきく乳製品への加工に重点を置いている。
2. 大都市周辺では牛の飼料となる牧草を自給する広大な牧場を確保しやすいため、鮮度が求められる飲用牛乳の生産を独占している。
3. 加工用生乳は飲用生乳に比べて腐敗しやすいため、消費地から遠く離れた北海道のような冷涼な地域で集中的に加工する必要がある。
4. 飲用牛乳は加工品よりも市場価格が低いいため、輸送コストを抑える目的で、すべての都道府県において消費量に見合った自給自足が行われている。

問6 北海道において、スマート農業が他地域に先駆けて積極的に推進されている理由を、土地利用の状況と社会的な背景から考察した説明として最も適切なものはどれですか。（2021年 宮城県公立入試 類似）

1. 広大な経営面積に対して従事者が不足しており、省力化の必要性が極めて高いため
2. 山間部が多く機械の導入が困難なため、ICTによる遠隔操作が唯一の手段であるため
3. 高齢者の割合が全国で最も低く、新しい技術を操作できる若者が過剰に存在するため
4. 小規模な農地が密集しているため、ドローンを使わなければ肥料が隣地に飛散するため

問7 北海道の地形や都市の配置について説明した次の文章のうち、地理的状況を正しく説明しているものはどれですか。（2016年 京都公立入試 類似）

公立入試 類似

1. 道北の稚内市から海岸線沿いに南東方向へ進むと、オホーツク海に面した網走市に到達する。
2. 内陸盆地に位置する旭川市から西へ進むと、オホーツク海に面した小樽市の港が見える。
3. 道南の志苔館跡や洞爺湖がある地域は、主にオホーツク海の影響を強く受けている。
4. 日本海に面した網走市では、冬にカリブ海から流れてくる流氷を観察することができる。

答え合わせ・解説

- 問1** **答え 1**
梅雨をもたらす停滞前線が北海道付近まで北上する頃には、勢力が弱まるなどして消滅することが多いため。
- 日本列島を南から北へと移動する梅雨前線は、北海道に到達するまでの間に勢力を失うか、性質が変わって温帯低気圧に吸収されることが一般的です。そのため、九州地方などでは6月から7月にかけて降水量のピークが見られるのに対し、北海道では顕著な雨期のピークが見られないというグラフ上の違いが現れます。この現象は「梅雨がない」と表現されることもあります。
- 問2** **答え 1**
広大な土地で農業が行われているため、第1次産業の割合が全国平均に比べて高い。
- 北海道は、十勝平野での畑作や根釧台地での酪農など、広大な土地を生かした農業が基幹産業の一つとなっており、第1次産業の就業者割合が約6%と全国平均よりも高い水準にある。一方で、就業者数の構成比としては、サービス業などの第3次産業が約76%と大半を占めており、第2次産業が中心というわけではない。
- 問3** **答え 1**
小樽市は日本海に面しており、網走市はオホーツク海に面している。
- 北海道は周囲を複数の海域に囲まれています。西側の石狩湾に面した小樽市は日本海側に位置し、歴史的に北前船の寄港地としても発展しました。一方、北海道の北東部に位置する網走市は、冬に流氷が接岸することで知られるオホーツク海に面しています。太平洋は北海道の南側から東側にかけて広がっています。
- 問4** **答え 1**
関東などの大消費地から遠いという地理的条件があり、鮮度が求められる飲用よりも保存の利く乳製品への加工が適しているため。
- 北海道の酪農は、根釧台地などを中心に日本最大の生乳生産量を誇ります。しかし、主な消費地である関東や関西などの都市部から物理的に距離があるため、鮮度が重視される飲用牛乳としてすべてを供給するには輸送コストや時間の制約が生じます。そのため、保存性が高く、長距離輸送にも適したバターやチーズといった乳製品の原料（加工用生乳）としての利用が大きな割合を占めています。
- 問5** **答え 1**
北海道は広大な土地を活かした大規模な酪農が行われているが、遠方の大消費地へ鮮度を保ったまま届ける必要がある飲用牛乳よりも、保存のきく乳製品への加工に重点を置いている。
- 生乳の利用形態と産地の関係は、消費地との距離と「鮮度」の関係で説明される。北海道は日本の生乳生産の大部分を担っているが、東京などの大消費地から距離があるため、輸送中に鮮度が落ちやすい飲用牛乳としての出荷には不利な側面がある。そのため、北海道では生乳をバターやチーズといった保存のきく乳製品に加工してから全国へ流通させている。これに対し、千葉県や神奈川県などの大都市近郊では、輸送距離の短さを活かし、鮮度が求められる飲用牛乳の供給に特化した酪農が行われている。
- 問6** **答え 1**
広大な経営面積に対して従事者が不足しており、省力化の必要性が極めて高いため
- 北海道の農業は、全国平均の約14倍という広大な耕地面積を誇りますが、従事者の高齢化と減少が進行しています。広すぎる土地を限られた人数で管理しなければならないという北海道特有の状況が、自動運転やロボットによる「省力化（労働力を節約すること）」を強く必要とさせており、スマート農業の普及を後押ししています。
- 問7** **答え 1**
道北の稚内市から海岸線沿いに南東方向へ進むと、オホーツク海に面した網走市に到達する。
- 北海道の北端にある稚内市は日本海とオホーツク海の境界に位置しており、そこから東側の海岸線を下ると網走市があるオホーツク海沿岸に至ります。旭川市は内陸の盆地に位置し、その西側にある小樽市が面しているのは日本海です。また、流氷が押し寄せるのは北海道の北東に位置するオホーツク海であり、カリブ海や東シナ海はこの地域には存在しません。